

「巡ル、廻ル、とっとり岩美」

鳥取 A 班 岩美 1 3 0 0

商学部 3 年 山下浩平

文学部 4 年 山本誠也

政治経済学部 2 年 戸井田紅花

～目次～

1. はじめに

2. 岩美町について

3. 我々の提案

4. 実現可能性と未来

5. 終わりに

1、はじめに

今回我々は、明治大学創立者である岸本辰雄先生の出身地である鳥取県に赴き、「鳥取を発信する」をテーマとした鳥取の活性化プロジェクトに取り組んだ。我々は鳥取県の中でも岩美町という町にターゲットを絞り、現地調査を行い、政策を考えていった。

4泊5日という短い期間の滞在であったが、とても充実した現地調査を行うことができた。これらは全て温かい現地の人々の協力のおかげである。聞き込みや・熟議による現地調査の中で、鳥取県としても岩美町としても「新たな観光資源・観光スポットの創出」と「地域問題を解決する人材育成」の実現への思いがあることが分かった。これら地元の人々の思いと「鳥取を発信する」というテーマを結びつけ、「新たなアイデアで鳥取を発信できる人材育成の実現」という発想が生まれた。

そこで我々は「鳥取を発信する」というテーマに対して、大きな目標を設定した。それは、大学生を対象とした鳥取を発信できる人材の育成を通じた、地域の問題解決プロフェッショナルの育成である。

ここでいう大学生とは地元の大学生だけでなく、首都圏の大学生も含む。地域と地元の大学の連携という例は昨今多くみられるが、地域と首都圏の大学生との交流という例は数少ない。というのも、地域と首都圏の大学をブリッジする人材が不足しており、連携が難しいという現状があるためだ。我々の提案でそうした現状をも打破できることを願う。

2、岩美町について

なぜ岩美町を選択したか

我々は、鳥取県の中でも岩美町をターゲットに現地調査を行った。もともと、我々は首都圏の大学生と地域が交流するための案を提案しようと考えていた。そんな中、2013年7月から1期が放送された「フリー」という競泳を題材にしたアニメの聖地が岩美町ということが分かった。2014年7月から、アニメの2期が放送され、今、鳥取の中でも大学生の間で話題の町となっていた。

さらに、岩美町は既に龍谷大学や鳥取環境大学との域学連携をしており、大学との連携の下地ができています。また、岩美町は現在農業従事者・漁業従事者ともに後継者不足という問題に悩まされている。これらの問題は岩美町だけでなく、全国の地方で見られる大きな解決しなければならない問題である。岩美町を事例として、大学生の視点からの新たな解決方法が見つかれば、全国的にも大きな成果となるだろう。

以上のように、岩美町が大学生の中で今話題の町であること、典型的な地域の問題を抱えていること、大学生との連携の下地ができている町であることが分かった。これらを踏まえ我々の提案は岩美町でうまく活用されると考えた。

岩美町の現状

先述の通り、「新たな観光資源・観光スポットの創出」と「地域問題を解決する人材育成」への思いのある岩美町は、龍谷大学との連携や、鳥取環境大学との連携に見られるように、大学との交流に積極的である。そこで、その交流を行う際に実際にどんなことが問題となっているか聞き込みを行った。すると、大学生の岩美町の滞在時間が短いいためか、あまり現実的・有効な問題解決案等が得られていない、という現状が見えてきた。学生はアイデアが豊富だが、岩美町をよく知ってもらった上での提案でなければ、実用的な案にはならない。岩美町の内部を理解した上での提案を岩美町は求めていることがわかった。

また、農業関係者・漁業関係者への取材で、やはり人手不足という問題を抱えているということもわかった。そして、岩美町の魅力を多くの人に知ってもらいたい、という声も多く聞かれた。これらの地元の人々の声を参考に作ったのが、後に説明する step1 の岩美マエストロ育成プログラムである。

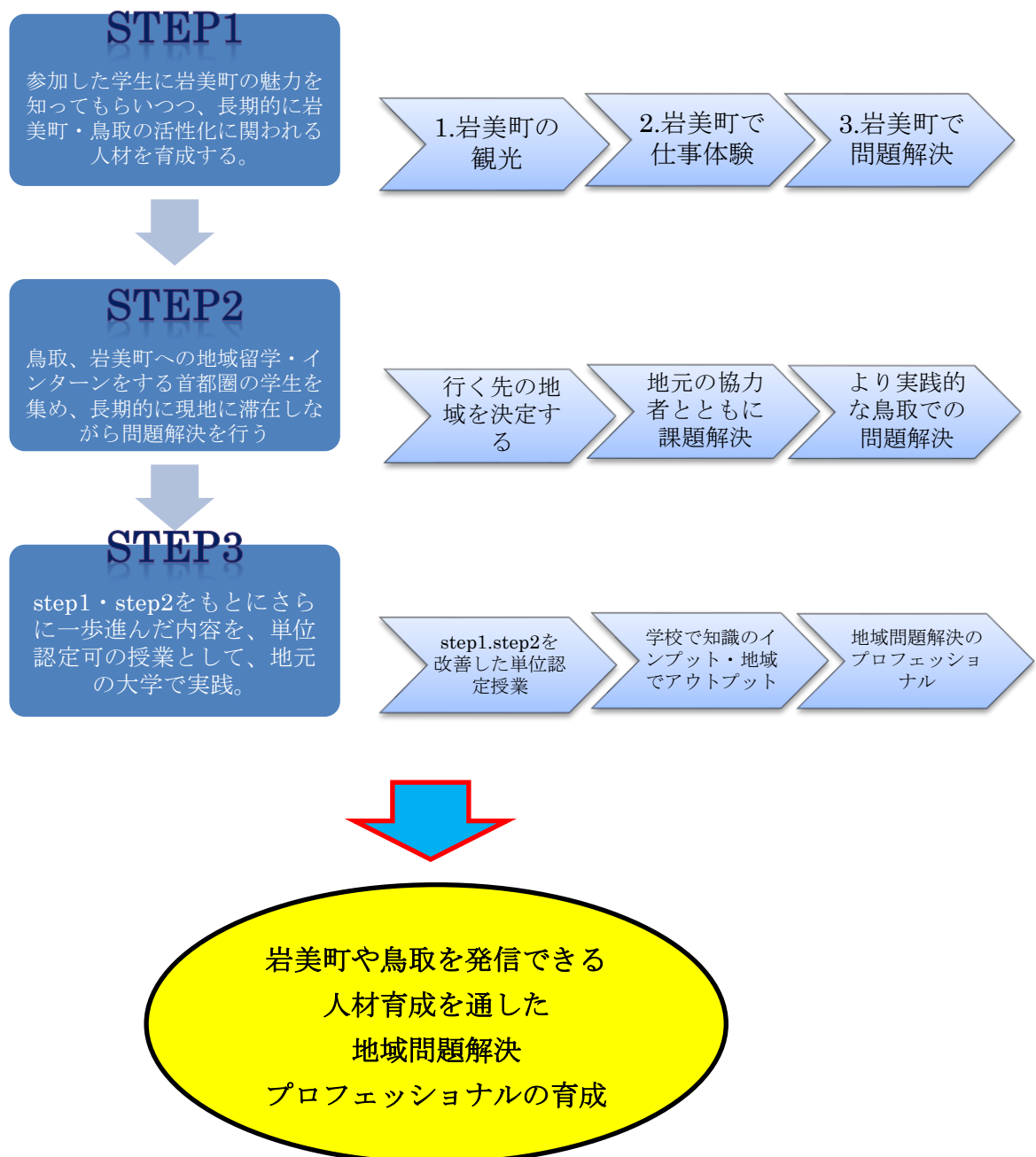
3、我々の提案

「はじめに」で述べたように我々の目指すのは、大学生を対象とした鳥取を発信できる人材の育成プログラムを通じた、地域の問題解決プロフェッショナルの育成である。

鳥取を発信できる人材の育成プログラムとは、具体的には大学生を対象とした、体験学習プログラムである。そして最終目標は、地域の問題解決プロフェッショナルの育成である。その大きな目標を達成するために、徐々にハードルを上げていく形で地域と大学生が連携できる仕組みを考えた。3つの step で徐々に学生と地域の距離を近づけていき、最終的に、地域問題を解決するプロフェッショナルの育成ができる構成になっている。

鳥取を発信できる人材育成のために～

以下の図が鳥取を発信できる人材育成のための3ステップの概要図である。



Step1~岩美マエストロ育成プログラム

参加した学生に岩美町の魅力を知ってもらいつつ、「長期的に」岩美町・鳥取の活性化に関われる人材を育成するプログラム。

Step2 ~行かいや！とっとり留学プログラム

首都圏の大学生に「地域留学先として鳥取県や岩美町を選んでもらう」・「地域に入り込み、地域が抱える課題を発掘。地域の人々と協力し、解決に向けて行動してもらう」、の2点を目的としたプログラムである。

Step3~

「地域問題解決に積極的な学生に、地域問題解決のために必要な知識を得ながら、長期的に地域課題と向き合ってもらおう」という事を目的とする。

以下で、それぞれの step について、具体的に説明をしていく。

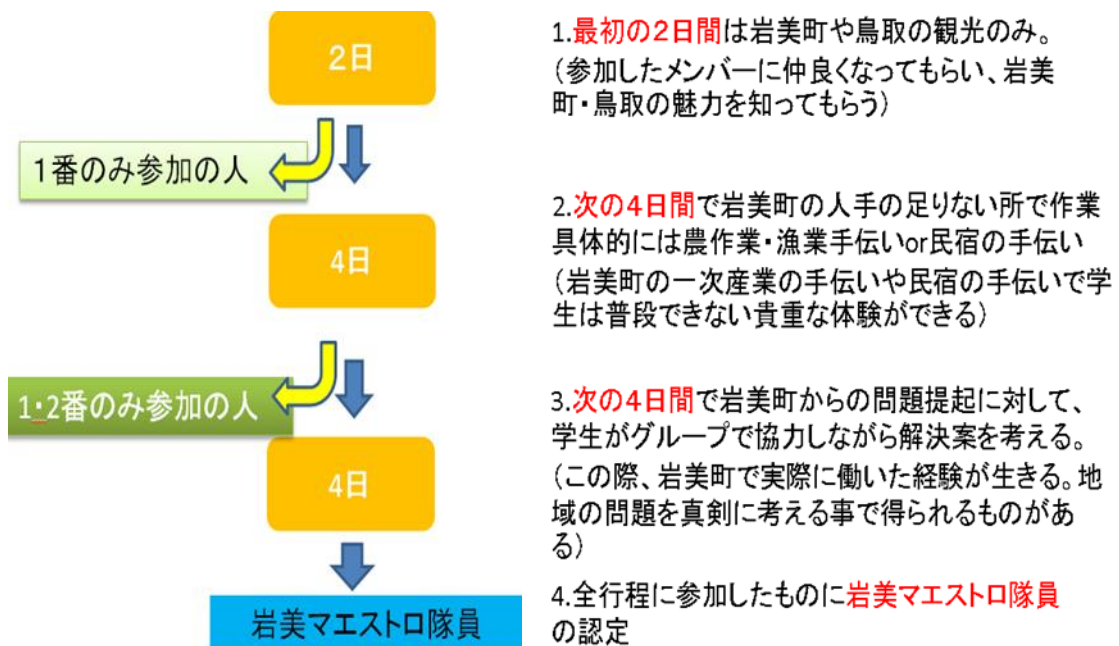
Step1～岩美マエストロ育成プログラム

岩美マエストロ育成プログラムとは、

「参加した学生に岩美町の魅力を知ってもらいつつ、長期的に岩美町・鳥取の活性化に関われる人材を育成する。」を目的とした10日間の学習体験プログラムである。

具体的内容～

10日間を2日、4日、4日、と3つの工程に分けた。以下の図が岩美マエストロ隊員育成プログラムの概要図である。



このように観光・働き体験・問題解決という3つの構成になっている。また、それぞれ

の段階で途中離脱可能となっている。

最初の2日間を岩美町や鳥取の観光に使う。この際、参加メンバー同士で仲良くなってもらうことで、後のグループワークが円滑に進む。

次の4日間を岩美町で働く体験をしてもらう。岩美町での取材で分かったが、人手が欲しいという要望が至る所で聞かれた。大学生の岩美町で働く体験は、大学生にとっても地元の人々にとってもメリットのあることだと考える。また、この働く体験から得る気づきが、次工程の問題解決の際に役立つ。岩美町の求めている、実用的な案の提案に一步近づくのではないか。

最後の4日間はグループワークである。岩美町から提示される問題に対して、学生なりの意見をグループで出してもらう。既に6日間協力しながら、プログラムに参加している。グループワークの際に、互いに協力しながら意見を出し合える関係が築けているだろう。そして、最後にこの10日間のプログラムに参加した学生に、岩美町から「岩美マエストロ」の認定をする。また、岩美町への宿泊券等の特典を付ける。

以上で、step1の岩美マエストロ育成プログラムの内容は修了である。

このプログラムの特徴は大きく2つ。

I 途中で離脱可能な3段階の構成プログラム

II 10日間（このプログラムの最後まで）参加した学生を、「岩美マエストロ」に認定

これら2つの大きな特徴により、他の大学生対象の地域体験学習プログラムとは差別化を図れる。それぞれの特徴のメリットについて述べる。

I～途中離脱可能なプログラムのメリット

途中離脱可能とした事には、2つのメリットがある。

1つ目のメリット～

このプログラムには先述のように「参加した学生に岩美町の魅力を知ってもらう」という目的と「長期的に岩美町・鳥取の活性化に関われる人材を育成する」という2つの目的がある。

ここで、我々は10日間参加せずとも、最初の2日間の観光のみ、ないし観光と農作業体験の6日間の鳥取の滞在で、十分に「参加した学生に岩美町の魅力を知ってもらう」という目的は達成できると考えた。

また、10日間という期間は決して短くない。たとえ岩美町・鳥取に興味があっても10日間という時間をハードルに感じ、プログラム参加を辞退する学生もいるだろう。興味があっても時間がネックとなり参加できないことは、学生にとってデメリットである。ま

た、多くの人に岩美町の魅力を知ってもらいたい、という岩美町にとってもデメリットである。そうしたデメリットを防ぐことができることが、途中離脱可能の1つ目のメリットである。これにより、プログラム参加自体へのハードルが大きく下がり、多くの大学生の参加が期待できる。

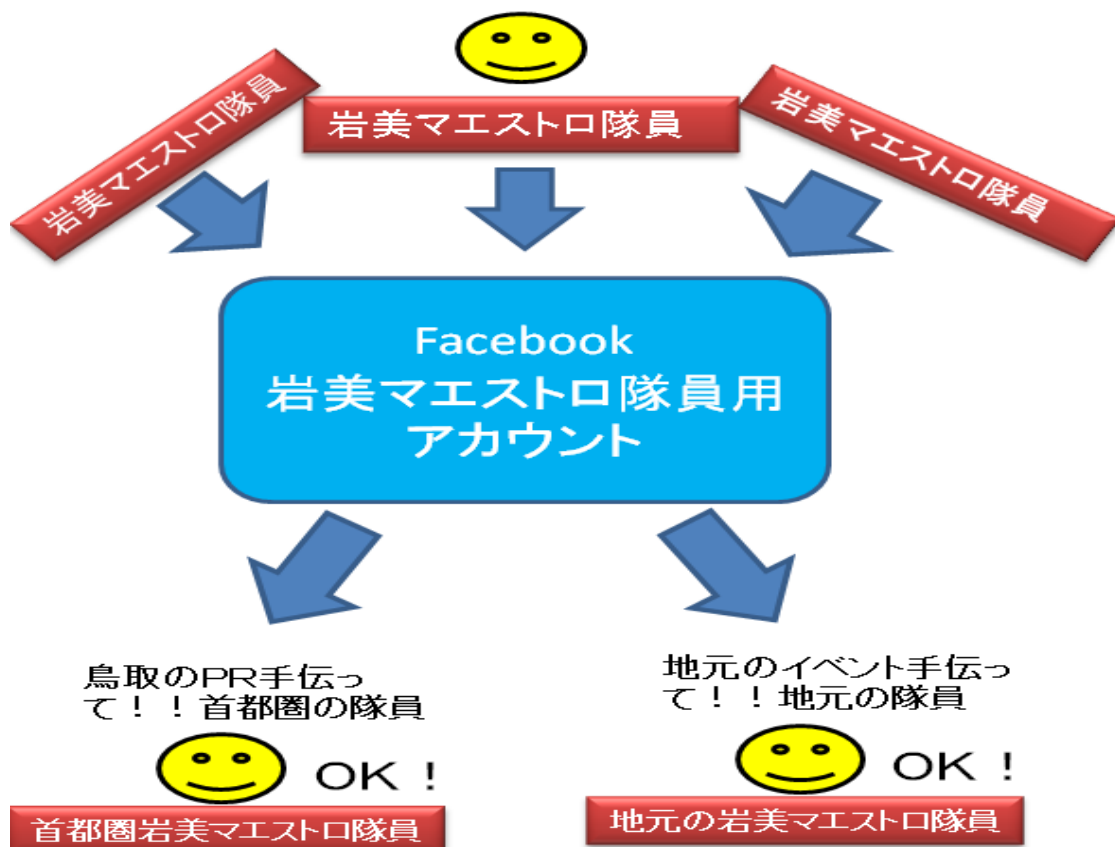
2つ目のメリット～

途中離脱可能とした2つ目のメリットは、参加学生のモチベーションギャップを防ぐことができる点である。NPO 学生人材バンクの取材で「学生のモチベーションギャップが問題になっている」という問題を聞いた。地域貢献に熱心な学生と、全く興味のない学生がグループワークをすると対立が生まれ、良いものがないそうだ。

ここで、途中離脱可能とすることで、モチベーションの低い者は途中で離脱できる。このため、最後の問題解決グループワークの際には、同じく高いモチベーションを持つ者のみが残っていると想定できる。このように、グループワークの際のモチベーションギャップを防ぐことができる。これが途中離脱可能の2つ目のメリットである。

II～岩美マエストロ認定のメリット

先述したプログラム内容だけでは、岩美町や鳥取に「長期的に」関われる人材育成には至らない。そこで、岩美マエストロに認定された者に役割をつけた。岩美マエストロに認定された者の役割について、以下の概要図で説明する。



岩美マエストロ隊員に認定されたものは、あらかじめ作っておく岩美マエストロ隊員用の facebook 等の sns のアカウントに登録してもらおう。鳥取県に絡んだ首都圏でのPR作業等の時には、首都圏のマエストロ隊員に手伝いの要望を出す。地元でのイベントの際には、地元のマエストロ隊員に要望を出す。

現地で NPO 法人学生人材バンクへ取材した際に、「鳥取の PR 活動などで東京に行くときに、人手不足で困っている。」という話を聞いた。鳥取からの人員補給は、交通費を考えると得策ではない。そこで、先述のような役割を岩美マエストロに持たせると、問題は解決するのではないかと考えた。

また、岩美マエストロ認定は、首都圏の学生にもメリットがある。岩美マエストロに認定された者は優先的に鳥取への地域留学ができる、という特典を付けるのだ。これについては step2 の提案で詳しく述べる。その他にもわざわざ、鳥取まで行かずに、地域貢献ができる。そして、長期的に地域の問題に関わり続けることができる。さらに、そうした交流を通じて様々な人脈ができる。このような様々なメリットが学生側にもあるのだ。

岩美マエストロに役割を与えることで、プログラムに参加して終わりではなく、持続的な関係を築くことができる。これが、岩美マエストロ認定のメリットである。

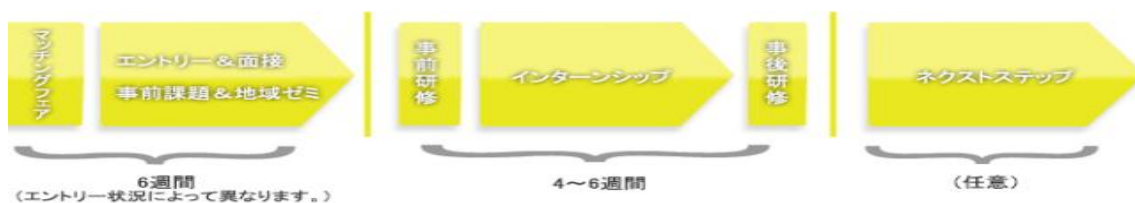
以上が step1 の岩美マエストロ育成プログラムの内容である。step1 の成功なしには、step2 や step3 の成功も難しい。我々の提案の中で、「一番重要な位置づけの提案」である。

Step2～行かいや！とっとり留学プログラム

「行かいや」とは、鳥取県の方言で「行こうよ」という意味である。このプログラムは、主に首都圏の学生に、「地域留学先として鳥取県や岩美町を選んでもらう」・「地域に入り込み、地域が抱える課題を発掘。地域の人々と協力し、解決に向けて行動してもらう」の2点を目的としたプログラムである。

多くの者は「留学」と聞くと、海外留学を思い浮かべるのではないかと。しかし、最近「地域留学・インターン」ということが数多く行われるようになった。海外留学に比べ格段に費用が安く済み、言葉の壁が無い分、主体的に行動ができる等メリットも大きい。しかし、留学には必ず、留学先に行くまでに学生の審査が行われる。往々にして、その審査期間が長すぎるということがある。

NPO 法人 ETIC では地域ベンチャー留学プログラムを行っている。以下¹がそのプログラムの流れである。



見るとわかるように、参加を決めてから地域への実際のインターンまで6週間という期間がかかってしまう。このように学生の審査期間が長すぎる、審査が厳しく学生にとって大きな負担、だと留学意欲が削がれてしまう。

そこで、行かいや！とっとり留学プログラムを利用して、大学生に鳥取や岩美町をインターン・留学先として選んでもらうのだ。

具体的内容～

まず、「行かいや！とっとり留学プログラム」参加者は岩美マエストロに認定された者とする。岩美マエストロに認定されているということは、10日間既に岩美町での現地調査を行っており、地域問題解決に熱心であり、信頼に足る学生である、という証明になる。参加対象を岩美マエストロに絞る事で、面接で学生を審査する手間が省略できる。こうす

¹ 「地域ベンチャー留学」 <<http://www.etic.or.jp/cvr/about>> (最終閲覧 9/30)

ることで、学生の地域留学の決断から素早く現地へ入ることが可能となる。学生にとっては大きなメリットとなる。また、地域留学を考えている者は、岩美マエストロプログラム参加のモチベーションともなるだろう。

そして、参加者には4～6週間という長期間での課題解決にあたってもらう。基本的には自分で課題を見つけ、それに対して自分で問題解決をしてもらう。最初に、鳥取の中でもどの地域に行くかを定める。その後、運営側から地元の協力者などの紹介をし、現地に入ってもらい、参加者はすでに岩美町の魅力をよく知っているのので、岩美町を留学先に選択するものが多いと予想される。そして、最後に現地でやってきた事の成果を報告してもらい、このプログラムは終了である。学生が主体的に行動し、人脈を広げ、自分のやりたい事の実現に向けて行動しなければいけない。こういった留学体験を経て、地域問題解決のプロフェッショナルへと成長することができる。

以上が step2 の行かいや！とっとり留学プログラムの内容である。

Step3～地元大学での単位認定

「地域問題解決に積極的な学生に、地域問題解決のために必要な知識を得ながら、長期的に地域課題と向き合ってもらい」ことを目的としている。

step1、step2 を運営していく上で起こった様々な問題や、改善点を見直し、授業として成立するような内容の濃いものに変えていく。鳥取大学や鳥取環境大学といった地元の大学に入ってもらい、授業としての成果を築き上げていく。地域でのフィールドワーク等を通して得られる、授業の成果を県外にも発信していく。最終的に首都圏大学との連携で、単位互換を行い、地域問題解決の授業成立を目指す。

ここまで実現すれば、まさに地域問題解決のプロフェッショナルの育成と呼べるだろう。

4、実現可能性と未来

step1 から step3 までであるが、中でも重要なのは、step1 である。step1 の提案の成功なしには、次の段階への移行ができないためである。そこで、step1 の岩美マエストロ育成プログラムの実現可能性について述べる。そして、step1～step3 までの人材育成プログラムが達成された際に期待されることについて述べる。

岩美マエストロ育成プログラムの実現可能性

岩美マエストロ育成プログラムの実現には、岩美町の全面協力はもちろん、運営主体が必要である。首都圏の学生にこういったプログラムがあることを PR し、観光から問題解決

グループワークまで、学生を管理することができる運営主体が必要だ。運営主体の決定と岩美町の協力さえあれば、十分に実現可能な案だと考える。

岩美町は、先述のように大学生の間で話題となっている町であるため、こうしたプログラムに参加したい学生は多いはずだ。

実現の未来

最近、地方創生という言葉がニュースをにぎわすようになった。以下 2014.9.29 の the page の記事引用²。

「政府が地方創生の具体化に向けて動き始めました。安倍首相を本部長とする「まち・ひと・しごと創生本部」を首相官邸に設置し、具体的な施策について検討を行います。地方創生は秋の臨時国会における主要議題のひとつです・・・」

このように、もはや地域の問題は、政府としても無視できない大きな問題となっていることがうかがえる。もちろん地方創生のために国がやるべき仕事・責任は大きいだろう。しかし、我々大学生が地方創生のために果たせる役割も大きいのではないかと考える。上記のような政府の地方創生のための動きが上から下への動きならば、我々の提案は下から上への提案といえるかもしれない。

我々の提案のようなグラスルーツレベルでの動きが活発化すると、地域問題解決のプロフェッショナルが多く誕生するだろう。すると、現在不足している、地域と大学や地域と地域を結ぶブリッジング人材も多数生まれる。こうして、地域との連携が容易い環境が作られていけば、地方創生につながっていくのではないかと。

5、終わりに

現地の方へ

現地調査の際には本当に地元の方々にお世話になった。4泊5日という短い期間であったが、鳥取の魅力・岩美町の魅力に触れることができた。これは、現地の方の温かい協力あってこそだ。岩美町役場の皆様、鳥取大学の皆様、鳥取環境大学の皆様、学生人材バンクの皆様、その他我々の取材を快く受けてくださった多くの方々に心から感謝したい。

² 「臨時国会の主要議題の一つ「地方創生」って何を指すの？」 <<http://thepage.jp/detail/20140929-00000002-wordleaf>> (最終閲覧 9/30)

このプログラムに参加して

余談だが、鳥取の NPO 法人学生人材バンクさんとの縁で、都内で行われた鳥取の PR 活動に参加した。9/27、9/28 にツーリズム expo@東京ビックサイトが行われ、その中で開催した鳥取の食べ物の試食・販売の手伝いをしたのだ。具体的には、鳥取県産の 20 世紀梨・鳥取県日野町産の米・鳥取県の地酒の試食・販売である。今回我々の提案するような、縁を大切に持続的に鳥取と関わる、ということが実践できたと感じた。また、ツーリズム expo で出会った、地域問題解決に携わる様々な人とのつながりも作ることができた。こうして、様々な人との交流を実現できたのも、このプログラムに参加したからである。こうしたプログラムを用意して下さった、明治大学、社会連携事務室の皆様には感謝したい。また、こうしたプログラムがもっと活発化することを願う。

明治大学 商学部 3 年 山下 浩平